

## Data

## 4

## 日米における大学・大学院・大学教職員の女性率

一般的に、アメリカでは女性の社会進出が活発であるのに対して、日本では要職に就いている女性はまだまだ少ないと言われています。日米大学間の学生・教職員の女性率を比較します。

大学・大学院・大学教職員<sup>\*7</sup>の女性率(図7(a))をみてみましょう。日本では、大学、大学院、大学教職員と進むごとに、女性の割合が減少していますが、アメリカでは、大学生・大学院生共に、女性の割合が男性よりも上回っていることがわかります<sup>\*8</sup>。また、アメリカにおいて注目すべき点は、大学生よりも大学院生の方が女性率は高くなっていることです。大学教職員では40%弱と過半数を割っていますが、それでも日本の場合と比較して、女性率は2倍となっています。

次に、理系専攻における女性の割合を比較してみます(図7(b))。日本の大学院では、一般的な認識通り、全分野平均と比べて理系専攻の女性は少なく、工学系においては約10人に1人という状況です。アメリカの大学院においても同様ですが、それでも自然・生命科学系では過半数を超えています。工学系における女性の少なさは、アメリカでも大きな問題として取り上げられています。そのため、The Society of Women Engineers や IEEE Women in Engineering といった、女性による女性工学研究者のための団体活動が活発で、各大学にも同様な学生組織が存在し、女性の理系分野におけるより一層の進出を支援しています。

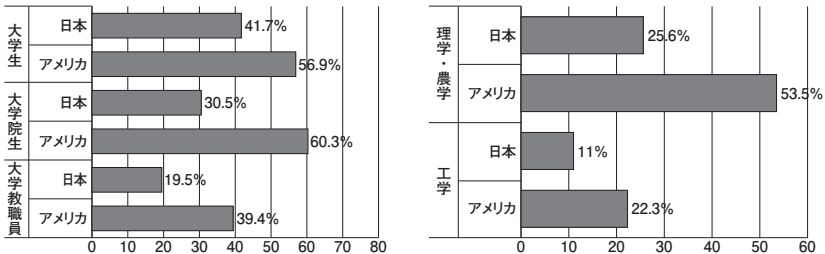


図7：(a) 左：日本とアメリカの大学生・大学院生・大学教職員の女性の割合 (b) 右：日本とアメリカの大学院専攻別に見た女性の割合<sup>\*9</sup>

\*7：ここでいう大学教職員とは、常勤で大学において教鞭を執っている人数を指す。

\*8：アメリカにおける在学者数では、学部課程では1970年代末に、大学院課程では1980年代初頭に、それぞれ女性が過半数を占めるようになった。

\*9：出典：(日本) 文部科学省・平成21年度学校基本調査(データは平成21年度)、(アメリカ) Digest of Education Statistics 2008 (データはFall 2007)